

平成31年度 自己評価計画書

石川県立いしかわ特別支援学校 No. 1							
重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
1 授業実践力の向上	① ・児童生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、授業改善に取り組む。	研究研修課 全学部	担当する授業の単元や題材などの指導内容や指導方法について、新学習指導要領に基づいた見直しや改善が必要である。	【成果指標】(教員) 単元や題材、指導方法について見直しを授業実践する。	担当する授業において、学習内容の見直しや指導方法の改善・工夫など、各期に2回以上、授業改善に取り組んだ教員の割合が A 70%以上である。 B 60%以上である。 C 50%以上である。 D 50%未満である。 【達成目標 B 以上】	中間評価が達成基準に満たない場合は、取り組み体制を検討する。	教員による自己評価 7月と12月
	② ・児童生徒の実態や障害特性に応じた自立活動の充実を図る。	自立活動部 全学部	肢体部門及び知的部門において、児童生徒の一人一人の実態把握を適切に行い、自立活動のねらいを明確にし、取り組みの充実を図る必要がある。	【成果指標】 児童生徒の身体機能、運動動作が向上する。 社会性やコミュニケーションスキルが向上する。	運動動作やコミュニケーションスキル等の向上・改善が見られた児童生徒の割合が A 70%以上である。 B 60%以上である。 C 50%以上である。 D 50%未満である。 【達成目標 B 以上】	中間評価が達成基準に満たない場合は、取り組み体制を検討する。	児童生徒の指導記録による評価 7月と12月
	③ ・授業において、児童生徒がICT機器を活用した情報活用能力や表現力を高める。	情報課 肢体小学部 ～高等部	授業のねらいを達成するためのICT機器の活用を一層進め、教員だけでなく、児童生徒の情報活用能力や表現力を高めることが必要である。	【成果指標】(教員) 児童生徒が授業の中で効果的にICT機器を活用し、表現できるよう学習活動や環境を工夫する。	授業の中で、児童生徒が効果的にICT機器を選択し、活用する学習活動が各期に2回以上設定した教員の割合が A 70%以上である B 60%以上である C 50%以上である D 50%未満である 【達成目標 B 以上】	中間評価が達成基準に満たない場合は、取り組み体制を検討する。	教員による自己評価 7月と12月
2 人と関わる力・生活する力・働く力の育成 ～キャリア教育の推進～	① ・自分から進んで挨拶することや自分の思いや意思を表現する力を高める。	知的・肢体 小学部	学校の教育活動全般において、児童が自分から進んで挨拶することや意思表示をする力を身に付けていく必要がある。	【努力指標】 児童の実態に応じて、自ら進んで挨拶したり、自分の思いや意思を表現したりする。	自ら進んで挨拶したり、自分の思いや意思を表現したりすることが増えた児童の割合が A 70%以上である。 B 60%以上である。 C 50%以上である。 D 50%未満である。 【達成目標 B 以上】	中間評価が達成基準に満たない場合は、取り組み体制を検討する。	児童生徒の指導記録による評価 7月と12月
	② ・生活単元学習で学年間の連続性や単元のつながりを意識した授業を展開する。	肢体・知的 中学部	学年間の連続性や単元のつながりを意識した授業を展開し、生徒の発達段階に応じて、集団の中で自分の思いや意思を表現する力を高めていく必要がある。	【努力指標】(教員) 学年間の単元の連続性やつながりを意識した生活単元学習を実施している。	学年間の連続性や単元のつながりを意識して工夫した単元の数が A 各期に3つ以上である。 B 各期に2つである。 C 各期で1つである。 D 各期で1つ未満である。 【達成目標 B 以上】	中間評価が達成基準に満たない場合は、取り組み体制を検討する。	学年または学習グループでの教員の自己評価 7月と12月
	③ ・作業学習で製造方法を工夫し、新製品を開発することにより、生徒の主体的な作業活動を引き出す。	知的中学部 ～高等部	生徒のより主体的な作業活動を引き出すために、作業班で、製造方法の工夫や新しい製品を開発し、販売活動を活性化させる必要がある。	【成果指標】 各作業班で製造方法を工夫し、新しい製品を開発する。	各期において、二つ以上の製造方法の工夫や新製品を開発した作業班の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である 【達成目標 B 以上】	中間評価が達成基準に満たない場合は、取り組み体制を検討する。	教員の自己評価 7月と12月

		④	・地域、保護者に満足して商品を購入してもらえよう販売会を実施する。	教務課 知的中学部 ～高等部 肢体高等部	定期的に開催している販売会(さくらShops)において、お客様に十分に満足して購入してもらえよう品数や新商品が提供できていない現状がある。	【成果指標】 消費者のニーズを的確に把握できるお客様満足度 アンケートを実施する。	アンケートによる満足度が「満足である」、「やや満足である」の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である 【達成目標 B 以上】	中間評価が達成基準に満たない場合は、取り組み体制を検討する。	さくらShopsでのアンケートによる評価
		⑤	・学校全体でキャリア教育に取り組み、人と関わる力や生活する力、働く力を育成する。	進路課 総務課 全学部	本校のキャリア全体計画(案)をホームページに記載し、各学部におけるキャリア教育の取り組みをホームページや学級だより等で周知するとともに、家庭での協力を求める必要がある。	【満足度指標】(保護者)学校でのキャリア教育の取り組みや子ども達の反応がわかる。	学校でのキャリア教育の取り組みを知っていると答えた保護者の割合が A 70%以上である B 60%以上である C 50%以上である D 50%未満である 【達成目標 B 以上】	中間評価が達成基準に満たない場合は、取り組み体制を検討する。	保護者によるアンケート調査 7月と12月
3	防災教育の推進	①	・児童生徒の実態や特性に応じた防災学習をとおして、防災に関する関心や意識を高める。	学校安全課 全学部	児童生徒の実態や特性、発達段階を考慮した防災に係る学習や活動を実施し、防災についての関心や意識を高める必要がある。	【成果指標】 児童生徒の実態に応じて、本校の防災学習のリストから学習や活動を選択し、実施する。	本校の防災学習リストから、各期に2回以上、学習や活動を実施した学年(学習グループ)の割合が A 70%以上である B 60%以上である C 50%以上である D 50%未満である 【達成目標 B 以上】	中間評価が達成基準に満たない場合は、取り組み体制を検討する。	児童生徒の行動観察及び指導記録による評価
		②	・避難訓練や防災学習の実施をとおして、安全に避難することや自分の身を守ることの大切さを理解する。	学校安全課 全学部	避難訓練や防災学習をとおして、安全に避難することや災害時に自分の命を守るために適切な行動ができる必要がある。	【成果指標】 避難訓練や防災学習において、安全に避難することや自分の身を守るために適切な行動ができる。	避難訓練や防災学習時に安全に避難することや自分の身を守るために適切な行動ができた児童生徒の割合が A 70%以上である B 60%以上である C 50%以上である D 50%未満である 【達成目標 B 以上】	中間評価が達成基準に満たない場合は、取り組み体制を検討する。	指導記録による評価 7月と12月
		③	・学校の防災教育の取り組みを理解し、学校と協力しながら児童生徒の防災の意識を高める。	学校安全課 総務課 全学部	学校における防災教育の取り組みを一層進め、その取り組みを学級だよりやホームページ等で周知しながら、児童生徒の防災に関する意識を高める必要がある。	【満足度指標】(保護者)学校での防災教育の取り組みがわかる。	学校での防災教育の取り組みを知っていると答えた保護者の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である 【達成目標 B 以上】	中間評価が達成基準に満たない場合は、取り組み体制を検討する。	保護者によるアンケート調査 7月と12月
4	校務分掌等の改善と工夫	①	・現状の校務分掌等の業務改善の取組を一層進め、計画的効率的な業務遂行に努める。	全学部	現状の校務分掌及び校内業務等の見直しや改善に更に取り組み、自らのタイムマネジメントを推進しながら教材研究の時間を確保する必要がある。	【満足度指標】(教員)校務分掌等の分業化と効率化を推進し、計画的・効率的な業務遂行をする。	校務分掌等の業務内容の分業化と効率化により、教材研究等の時間が確保できたと答えた教員の割合が A 70%以上である B 60%以上である C 50%以上である D 50%未満である 【達成目標 B 以上】	中間評価が達成基準に満たない場合は、取り組み体制を検討する。	教員による自己評価 7月と12月